市史編さんの窓 (7)

新津氏ゆかりの観音像

観音寺の聖観世音菩薩像

昭和二十七年発刊の「新津市誌」の"観音寺"の項に、

本寺は曹洞宗に属し、正法寺の末寺で山号を山谷山という。

新津家の持仏堂に安置せられた聖観音を本尊とし、準国宝的像だと言っているが、実物は未だ見ていない。

——とあります。この聖観世音菩薩像は、新津十五代丹波守勝資の守り本尊と伝えられており、御開帳以外には見ることができません。

しかし、このたび観音寺様のご好意により、撮影することができました。右の写真がそれです。

いい伝えによると、この聖観音像は丹波国某に安置してあったものが、応永年間（一三九四～一四二七）に羽生田の城主に伝わり、そこから新津丹波守勝資の手にわたって持仏として祀られたといわれています。その後、正法寺六世の僧文能が退隠の折、山谷にあった草庵＝観音庵を観音寺とし、聖観音像を本尊として今日に至ったとされています。

この聖観音像は聖徳太子の作と伝えられており、台座からの高さが三十五センチの木像です。いかにも中世武将の持仏らしく、尊厳な雰囲気の中にも人を射るような目が印象的な仏像です。

観音寺の本堂正面と堂の内部に三鷹羽（みたかは）の紋が見られますが、三鷹羽は新津氏の祖——平賀氏からの定紋で、いま一つ、松皮菱（まつかわびし）も新津氏の紋として使われていました。この紋について新津氏の子孫の方に照会したところ、「そのとおりです。三鷹羽は表紋として使われています」ということでした。

＊＊＊

新津氏については、加藤辰蔵氏の遺稿や、米沢図書館の資料などである程度知ることができます。

現在、新津氏の子孫としては、二十七代新津哲男氏（東京）と分家の九代仁井津勲氏（神戸）がおられます。市史編さん室でもこれら新津氏ゆかりの方々と連絡をとっていますが、古文書類などは戦災のときに焼失されたようで、たいへん残念です。

文化財の保護にご協力ください

一月二十六日は文化財防火デー

昭和二十四年一月二十六日、法隆寺金堂の壁画が焼失しました。これをきっかけに一月二十六日が「文化財防火デー」と定められ、文化財を火災・震災などの災害から守るため、毎年この日に文化財防火運動が展開されています。

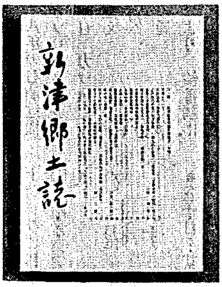
文化財は、祖先から私たちに引き継がれた貴重な財産です。私たちは、これを間違いなく子孫に渡す責務があります。書、画、彫刻、建造物など国・県・市から指定されているものはもちろん、各自所有の文化財を災害から守るため、地域ぐるみ、住民ぐるみのご協力をお願いします。

市でも、毎年この日に文化財の防火演習を行っていますが、今年は、一月二十六日、金津の中野邸で防火演習を行うことにしています。

文化財の防火演習（妙蓮寺で）

"水倉"や"荻島の戦い"を紹介

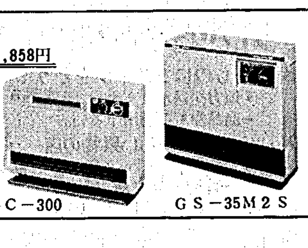
「新津郷土誌」第９号



「新津郷土誌」第九号が発刊されました。第九号では、小合地区に残る"水倉"や、北越戊辰戦争の"荻島の戦い"に関する始末書などが紹介されています。この「郷土誌」は一般頒布も行っており、市内各書店、図書館で求めることができます。一冊千円です。

お買物、ご用命は市内で

New TYPE '83 —ガスファンヒーターは最も経済的な家庭暖房です—
◆１ケ月の暖房費……条件：６畳、外気温５℃、室温設定22℃　１日８時間使用で　4,858円
◆温風下吹き出し、ルームサーモ付、不完全燃焼防止装置付
◆居間・応接間にどうぞ……全体を暖める必要のある部屋や、人がたくさん集まるお部屋に適しています。
◆能力　木造10畳、コンクリート造、14畳クラス　ＧＳ－35Ｍ２Ｓ　定￥ 64,800
　　　　木造８畳、コンクリート造、12畳クラス　ＲＣ－300　定￥ 59,800



ＲＣ－300　ＧＳ－35Ｍ２Ｓ

越後天然ガス株式会社